



TOPIC

今年もやるすけ! みんなで楽しむべし!



南部弁はなぐしたくねえ 残してじゃあ!
笑って、へずなく、感動のバラエティショーが今年も開催決定。

瀬川さとし、大地球、中島美華、あどばる一ん、十日市秀悦はじめ、お馴染みの顔ぶれに加えて今年はどうな南部弁を愛する人達が集まるのか乞うご期待! みんな来てけるな、一緒に楽しむべし!



南部弁の日

とき 2023年12月10日(日)
開演14:00(開場13:30)
ところ 八戸市公会堂文化ホール
入場料 一般前売 ¥2,800(当日¥3,000)
高校生以下 ¥1,500(前売・当日とも)

【チケット取扱】**〈11月上旬発売開始予定〉**
はっちインフォメーション・ラピア・八戸市公会堂・スペースベン

お問合せ:080-6025-0990(ショートメッセージ可)
※出られない時は折り返しお電話します
※お急ぎの時はSMS(ショートメッセージ)をご利用ください
Fax.050-3588-8350
e-mail owner@spaceben.com

〈開催予定〉

はっちがずっぱど南部弁

とき 2023年12月2日(土)・3日(日)
ところ 八戸ポータルミュージアム はっち

〈theater information〉



公文協落語 はちのへ寄席

【日時】2023.11.4(土)
14:00開演 13:15開場
【場所】八戸市公会堂
【料金】2,000円 高校生以下1,000円
【チケット取扱】公会堂・ラピア・はっち
ゲッティーズ
【問合せ】(株)アート&コミュニティ
☎44-7171

真打ち・八戸大使の桂小文治の落語の他、講談・太神楽も上演。地元アマチュア落語家大地球も出演。



日本全国能楽キャラバン! in八戸

【日時】2023.11.8(水)
18:00開演 17:00開場
【場所】八戸市公会堂
【料金】大人4,000円
子供2,000円(中学生以下)
【チケット取扱】公会堂・びあ・イープラス
【問合せ】鎌倉能舞台 ☎0467-22-5557
人気曲「土蜘蛛」を上演。狂言「柿山伏」の他、解説もあり、初めて能楽に触れてみたい方にもおすすめ。

〈スペースベン 11月の予定〉

FANS 予定 第1552~1555回

毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。
一般前売500円/大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増)

「かたり場」「だべり場」「ほだれ場」随時開催しています

〈Dance Lesson〉

- 毎週月曜日 19:00-20:00/あつし HIPHOP
- 毎週火曜日 20:15-21:45/KAZU HIPHOP DANCE SCHOOL
- 最終水曜日 19:30-20:30/SEGA HIPHOP
- 毎週土曜日 16:30-18:00/BRE FAM HOUSE DANCE HARUクラス

詳細は080(6025)0990にお電話でご確認ください

〈メンバーズカード〉

チャージ可能なプリペイドカードで、入場の際ご提示いただくと前売料金で入場いただけます。また、どの公演でも入場料から3%値引きいたします。チャージは現金でもクレジットカードでも可能です。

〈キャッシュレス決済〉

「paypay」「LINE pay」「メルペイ」の他、カード払いに対応しています。



ジャポニスム〜ベル・エポック共創企画 「ベニスに死す」映画上映会

【日時】2023.11.25(土) 13:30開演
【場所】三八城公民館
【料金】1,000円(先着50名)
お申込は電話または下記サイト申込フォームにて
【問合せ】街かどミュージアム「白マドの灯」
☎0178-32-7737
「自主上映会」後援事業による上映会で、様々な会場・作品での上映が予定されている。詳しくは「白マドの灯」HPで。
<https://shiromado.com>

〈Free Column〉

劇場の片隅から

文/外館 暢子
(フォーチュンシアター)

スペースベンのホームページに、アミューズ28年分のステージ欄が掲載されたので、懐かしくなりダウンロードして読み始めたら止まらなくなりました。1995年はちょうど私の娘が生まれた年。私はイージーシアター我楽多屋に所属、活動していた。それから28年…その間に、はちのへ演劇祭も10年やったな…懐かしい名前もチラホラ。あの人は今、どこで何をしているかな…。そういえば、我が家には30年ほど前からのアミューズが、かなりの量保管されている。この機会に引っ張りだしてみようかな。ページをめくる時のドキドキ。また止まらなくなりそうだ。

特別寄稿

人生に触れる

文/高坂 大誠 (おとなエンゲキヴ ヴ員)

長すぎる残暑から、ようやく秋らしい天気になってきた頃、劇評のお誘いを受けて、劇団やませの本公演「ひたむきに生きて」を観劇した。劇団やませの舞台を観させていただいたのは今回が初めてで、演者の皆さんはどのようなお芝居をするのか、とても楽しみにしていた。会場に入った時、椅子には僕みたいな若い人は少なく、ご年配の方々がほとんどだった。少し寂しい気持ちがあったが、そのくらい長い間愛された劇団なのだと物語っているようだった。

幕が上がると、藤の花が咲き誇った老人ホーム。相京範昭と共に八木秋子が、自分が生きてきた証として残す機関紙の打ち合わせのシーン。少しコミカルな会話が出てくると、たくさんの方が笑った。その中で「永嶋暢子」の名前が出た途端、どこか懐かしく柔らかな空気感になり、八木秋子の思い出話が始まった。ここで印象的だったのが永嶋暢子が「嫉妬」という字をおんなへんじゃなく、りっしんべんに変えるべきだと、より嫉妬深いのは男のほうだろう断言したところ。僕はここでこの女性は人として、アナーキストとして、強い意志を持っている方なのだなと感じた。そこから、八木秋子と永嶋暢子の掛け合いが始まった。先程まで老人だった八木秋子がまるで少女に戻ったかのように、話し方や雰囲気が変わり、過去にいる永嶋暢子と楽しそうに話している。そこに相京範昭が介入し、現代と過去がリンクした世界になり、とても不可思議な空間となった。楽しげな会話もつかの間、永嶋暢子の激動の人生が始まった。女性解放運動への参加や、関東大震災の被災者救済のために動き、その一方で、記者として女性の地位向上のために筆を執る。二足どころか三足のわらじを履き、自分の目標、願いのために行動するその姿は、当時の女性たちの道しるべとなつたのではないだろうか。

時代は昭和に移り、解放運動への弾圧が厳しくなるも、永嶋暢子は差別や貧困問題に自分ができることで諦めず戦い続けた。舞台は満州へと移り変わり、永嶋暢子の新しい生活が始まった。八木秋子も同じく満州へと向かう。舞台装置はここで列車の車体へと回転し、永嶋と八木が乗り込み、2人のツーショットで場面は転換する。ここで周りの観客から笑いが溢れた。何かのオマージュなのかもしれないが、若輩者の僕には分からず、素敵な場面だなとしか見れなかった。周りの人たちと感情を共有できなかったのが少し悔しい。

満州でも永嶋が願う未来のために活動していくが、戦争が激化し、永嶋と八木は離れ離れに。後に永嶋の最期を聞かされた八木は、一生の後悔となつただろう。しかし、この記録を残してくれたことで、この舞台ができた。僕も永嶋暢子について知ることが出来た。

昨今、戦時中のことを語れる人が少なくなったと聞く。舞台やドラマ、映画など、作品という形で後世のたくさんの人に伝えることができるのは、その人の人生を五感で感じ取ることができる、いい機会になるのではないだろうか。



劇団やませ 令和5年本公演
「ひたむきに生きて」—永嶋暢子と婦人解放運動—
2023.9.22(金) 18:30
23(土) 13:00
八戸市公会堂文化ホール



●筆者近況

社会人になって3年目。最初は舞台も出演できて、仕事とお芝居の両立を目指したが、最近の仕事が忙しくなり、すっかり見る側になってしまった。台本読みたい、舞台に立ちたい、感情を爆発させたい。そんな気持ちになりながら、またできることを夢見て力を蓄えています。

FANSで上演・LIVEをやってみませんか？

ジャンルは問いませんので、まずはお気軽にご相談ください



Director

田中 勉

〒031-0081 八戸市柏崎1-11-8
mobile 080(6025)0990 Fax.050(3588)8350
e-mail owner@spaceben.com

<https://spaceben.com/>

crossingcafe

fanscross

crossingcafe

crossingcafe

@fanscafe



FANSってなんだ!?

小劇場「スペースベン」にて、毎週金曜日の夜7時30分から、約30分の芝居を楽しんでいただく企画です。芝居に限らずライブ・ダンス等、ジャンルの枠にとらわれず、金曜日の夜には“ここで何かおもしろい事をやっている”という場になればと思います。なお、料金は特別番組以外全て前売り500円、学生は200円です(当日100円増し)。上演の場を求めている方、刺激を求めているあなた、ご連絡お待ちしております。